



へ 遠 13  
2419  
2 止



大正五年

大正五年青島  
東井平藏氏贈

○七段目の口  
さうな門のついでに夜  
おむすやうなうた  
店ぐきの七段目へと  
うらむあつらふなうたへと  
うらむあつらふなうたへと  
とらふあつらふなうたへと  
さうな門のついでに夜  
おむすやうなうた  
店ぐきの七段目へと  
うらむあつらふなうたへと  
うらむあつらふなうたへと  
とらふあつらふなうたへと

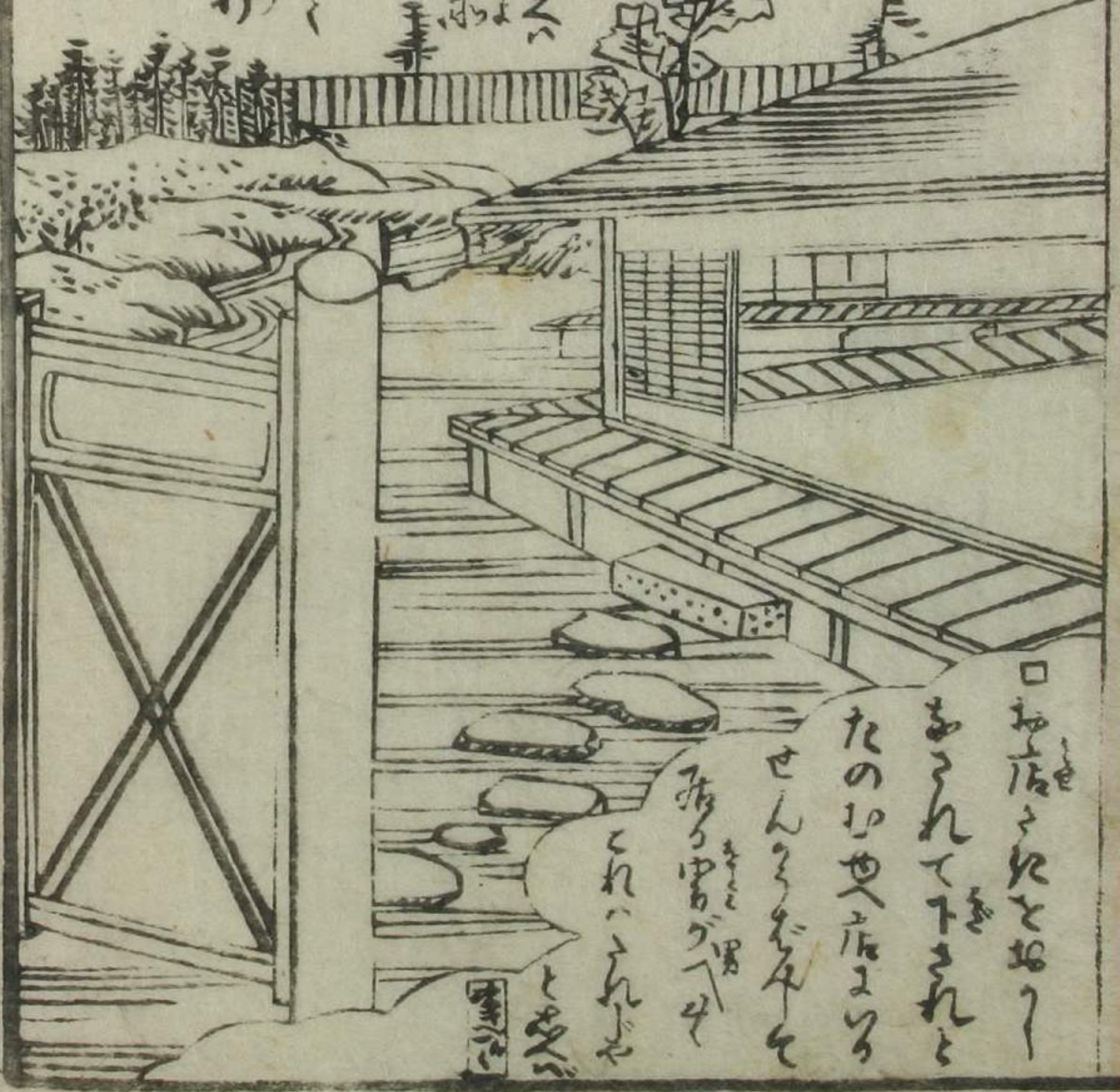


さうな門のついでに夜  
おむすやうなうた  
店ぐきの七段目へと  
うらむあつらふなうたへと  
うらむあつらふなうたへと  
とらふあつらふなうたへと

3通へ  
2419  
2止

○七段目折切

孝の秋も系たてそ  
このゆう折木棒が  
上へ垂よるれろとち  
うらさとまつり  
むとそらうどんし  
おろがごと親と市まへ  
背戸の土まぐるな  
棒とどのいしつれて  
一帯よそと東へおの  
のぼりしとともお  
よく折木のことあれは  
んこあつと志け




□お店よれとあう  
あつて下されと  
たのい文店よ  
せんろを年を  
あつてあつて  
これへこれへ  
とあへ

これへおつと  
定めておつと  
うれうであつと  
おつと  
おつと  
おつと  
おつと



おつと  
おつと  
おつと  
おつと

一ツの所じいんすゝまはらうたのりや  
 納屋よりむらとすのちてあつて  
 子市ま棒大さふらうらららら  
 の店えんをろげの梓とあふん  
 亭てあふへ一カのていも徳を  
 かんさんよりけりしやいふ  
 かくこれいんまの今日あつて  
 ちてハアサのていあつて  
 くられとむらいつてあつて  
 むらうて店のあつていふ



金八今どいへすのてい  
 せ良大一人すまん  
 素直さうて  
 場のつぎ  
 これへお出ト  
 店えんがえんが  
 みるのかこもかあつて  
 市まも大のはらあつて  
 ゐんをいふわてあつて  
 ちていふ解らる今八らへて  
 市まさんで何くも店とあつて  
 ちてあつて追付らる大まのあつて





向ひも西の方も  
 ちの伊東一や  
 引くもへとのとぞん  
 志事よしゆあふりれと  
 らんとむつて下されと  
 らの親父のし申ま  
 らと記しそらゆと  
 をしよりて下され  
 何れもそんちの  
 ころんとしつと  
 せよしつと



挿店と行ぢ  
 けろと一かの  
 内へほうと  
 挿とあふいぬ  
 フット挿子  
 せうとてふ  
 せうとてふ  
 せうとてふ  
 せうとてふ  
 せうとてふ

○八段目  
 かしら  
 せうとてふ  
 せうとてふ  
 せうとてふ  
 せうとてふ



○九段目

大田一平良之助と山一かの西のど  
 村とわなはな間居してうぐく糸の湯を  
 のもろくへつろくとめく  
 と道をとめつあふとく  
 ちの日も出入のちた  
 わんかいてせや  
 今日もまういさかた  
 身でござりすはさ  
 おもーろの二粒がさ  
 すは魚へお目つろひは  
 まーくもむおめつとま  
 とーいせでぶお良し女よ



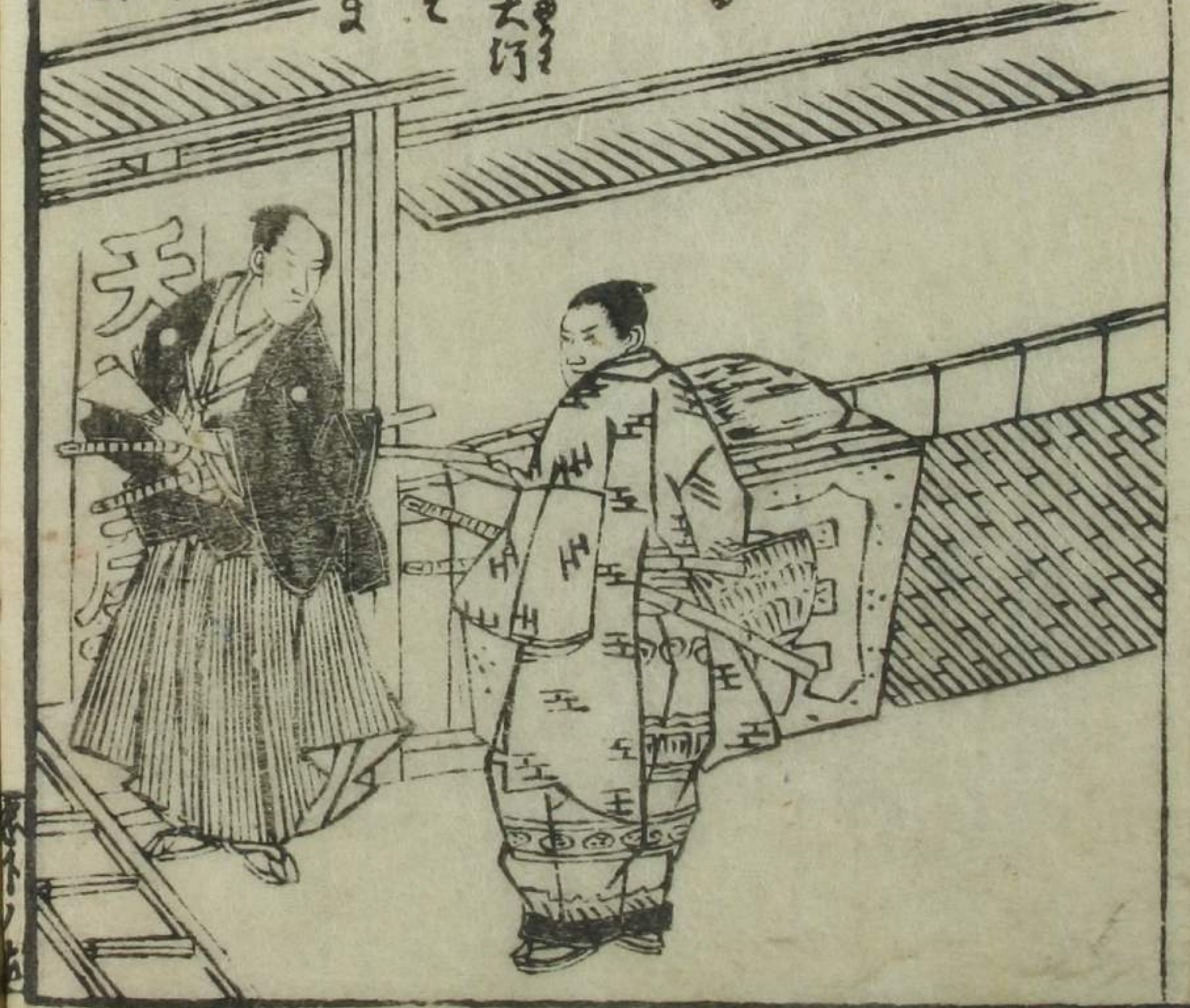
うらあがてトト  
 大田一平良之助  
 おもろくへつろくとめく  
 と道をとめつあふとく  
 ちの日も出入のちた  
 わんかいてせや  
 今日もまういさかた  
 身でござりすはさ  
 おもーろの二粒がさ  
 すは魚へお目つろひは  
 まーくもむおめつとま  
 とーいせでぶお良し女よ



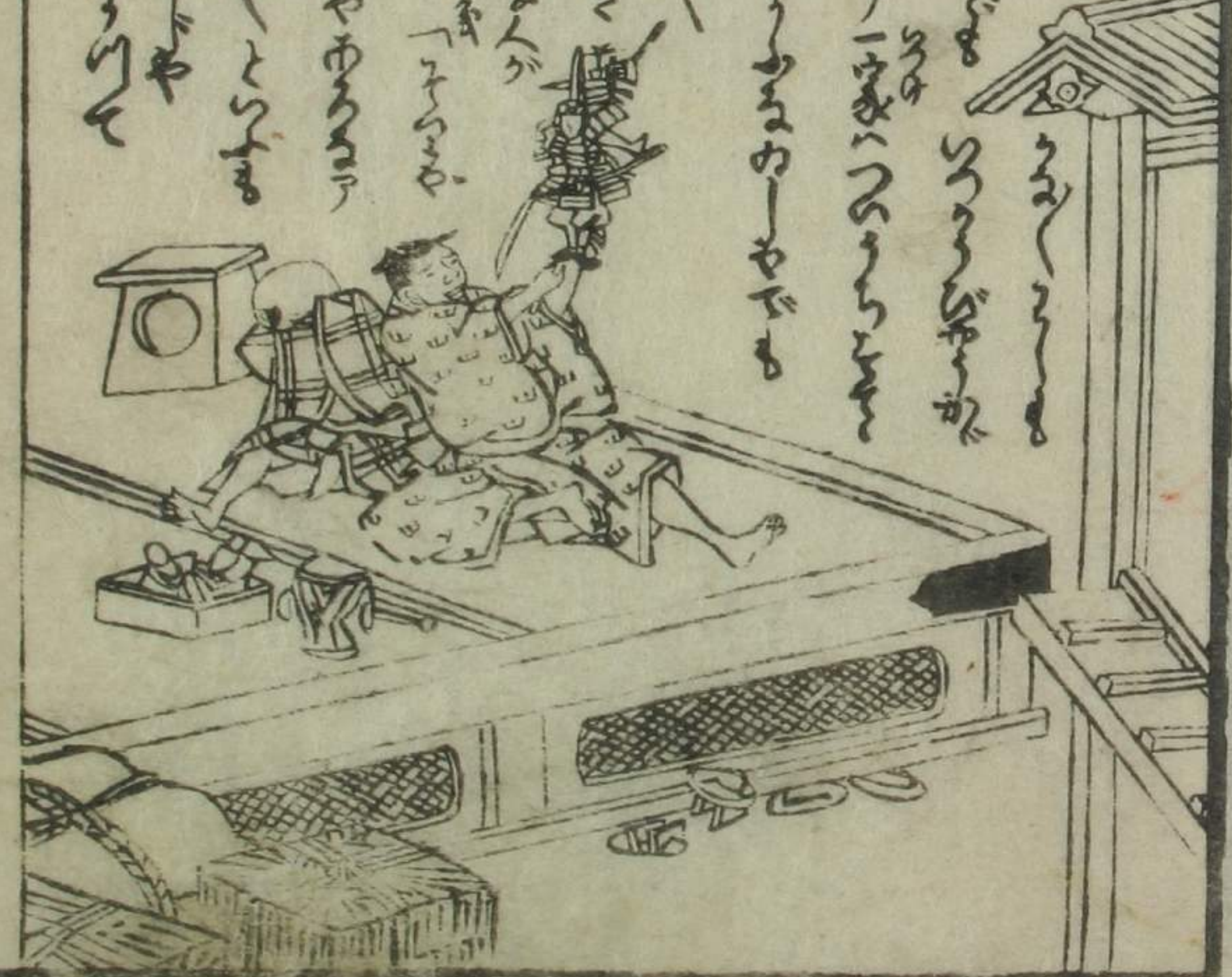
こゝろを其のつげよあ  
りうへを其の山みみと  
そそあうるふ「たそそそわ  
十へあせてぶらりやん人  
「サイヤイもやんれそ  
ある

### ○十段目お口

おそのて親のわらう行天行  
屋の門はうらう「はらうをいそ  
がーいので移のうらうあんま  
うぬが美平ぶの風へあ  
さうのしとぶはよはじさ  
美平まらで可あうとあ



びろくろのつてあうそ  
ののく移のうらうあんま  
そそあうらうやうあうれども  
とんとあうてはそがのあうらうあうらうらうらう  
あれやうらう「たそそあ人のうらうあうのわやでも  
とやうらうらう「あうらうらう  
あうらうかともらうらうあうらうらう  
さうらうらうらうらうらうらうらう  
あうらうのわやうらうらうらうらうらう  
すくく「あうらうらうらうらうらうらうらう  
たそあうらうらうらうらうらうらうらう  
とあうらうらうらうらうらうらう  
うらう





○十段目の切

中倉之介義平よりしんげん  
 半蔵の所志のほとよあこ  
 トけはよもよ武士のせう  
 あつたれのとあつたれと  
 あつたれとあつたれとあつたれと  
 あつたれとあつたれとあつたれと  
 あつたれとあつたれとあつたれと



浪人のめれをよさうせど  
 ほんの門れ乃あつたれと  
 とくく行あつたれと



浪人のめれをよさうせど  
 ほんの門れ乃あつたれと  
 とくく行あつたれと

中倉之介義平よりしんげん  
 半蔵の所志のほとよあこ  
 トけはよもよ武士のせう  
 あつたれのとあつたれと  
 あつたれとあつたれとあつたれと  
 あつたれとあつたれとあつたれと

中へとみみりうあげとち  
 この中へあつちのち「四目  
 のち」のち「あつち」のち  
 この風名をまじがぬのち  
 とつとつねにむら「け  
 ぬ」のち「あつち」のち

○十一段目 大切  
 ねるまの師直のち「あ  
 大へ「あつち」のち「あ  
 あつちのち「あつち」のち  
 して四拾七人の義士は付  
 こつち「あつち」のち



道々どどど「あつち」のち  
 うらふち「あつち」のち  
 うらふち「あつち」のち  
 うらふち「あつち」のち  
 そのち「あつち」のち  
 師直はひめれて「あ  
 ん「あつち」のち「あ  
 とつち「あつち」のち  
 まを那屋のち  
 とつち「あつち」のち  
 あつち「あつち」のち  
 天の助け「あつち」のち  
 四十七人のあつち「あつち」のち





約をのまきつる四十七人のめん  
 師とすらしむひんくちまひん  
 せんくくくくくくくくくく  
 たり師とすらしむひんくちまひん  
 むくくくくくくくくくく

せんくくくくくくくくくく  
 むくくくくくくくくくく  
 せんくくくくくくくくくく  
 むくくくくくくくくくく  
 せんくくくくくくくくくく

御免  
 随求尊天靈方  
 せんずい丸  
 大色代百  
 中色代廿四  
 女  
**ななびしちん**  
 前田金隨堂  
 本家



一冊御茶へ随求尊天を深く祈りて小村丹下といふ人  
 多る天の靈夢を蒙り細進りて名方於茶よじし小見の  
 第痛とくくくくくくくくくく其数うそくくくく其共老年及び於  
 茶の世信次くくくくくくくくくく其共老年及び於  
 功の速あると練斎揚の靈業也を功徳たよあるに  
 一冊又人がくくくくくくくくくく一冊又人がくくくくくくくくくく一冊又人がくくくくくくくくくく



